

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.8)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	特別養護老人ホームさくら及川	階数	地上4F
建設地	神奈川県厚木市及川字柳流793番	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、防火指定なし	平均居住人員	200人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2015年3月 竣工	評価の実施日	2016年6月30日
敷地面積	4,988㎡	作成者	株式会社 日比野設計
建築面積	1,619㎡	確認日	2016年6月30日
延床面積	5,481㎡	確認者	株式会社 日比野設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

□建設 □修繕・更新・解体 □運用 □オンサイト □オフサイト

①参照値 100%

②建築物の取組み 66%

③上記+②以外の 66%

④上記+オフサイト手法 66%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9

音環境	2.3
温熱環境	2.3
光・視環境	3.3
空気質環境	3.5

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.1

機能性	3.1
耐用性・信頼性	3.3
対応性・更新性	2.9

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.3

生物環境	2.0
まちなみ・景観	2.0
地域性・アメニティ	3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.7

建物の	3.6
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

水資源	3.4
非再生材料の使用削減	3.0
汚染物質回避	3.6

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.5

地球温暖化への配慮	4.3
地域環境への配慮	3.0
周辺環境への配慮	3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合 要介護の入居者及び介護スタッフ、また来館者が心地よく過ごせるよう採光通風に配慮した平面計画としている。中庭を設け光と風を取り込み、中間期には機械に頼ることなく風が通り抜けるようにしている。西側は外部にルーバーを設け西日対策を行い、外部で日射遮蔽を行っている。		-
Q1 室内環境 施設内の快適性確保の為、音環境(界床遮音性能(重量衝撃源)LR値50)、光視環境(昼光率確保、中庭設置、住居・宿泊部分にカーテン、各階に庇設置)、空気質環境(F☆☆☆☆建材採用、住居・宿泊部分の換気量を2倍確保、全館禁煙)の向上に努めている。	Q2 サービス性能 内外装共防汚性に配慮した材料を採用し、維持管理に配慮している。非常用発電機を設置、通信設備の多様化、補修必要間隔の長い外壁材、配管材を採用し、建物の耐用性・信頼性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。視線を遮らない中木を配置し、防犯性に配慮している。空地率を大きくし、中木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。
LR1 エネルギー 適切な断熱材を配し、全方位庇(バルコニー)、カーテンにより日射取得の削減をしている。LED照明の積極的な採用など省エネルギーにかかる対策を実施している。	LR2 資源・マテリアル 自動水栓に加えて節水型便器などの省水型機器を用いるなど、水資源を保護している。ノン断熱材を採用し、汚染物質含有材料の使用を回避している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率66%、広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮、管理用車両・荷捌き車両の駐車施設を確保し、交通負荷の抑制に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される